

平成24年度新技術導入 広域推進事業取組実績 (概要)(継続課題)

「さがほのか」の育苗技術の向上及び成熟日数管理による単収向上

=大分県=

【事業の実施方針】

単収向上のため、炭そ病に効果のある薬剤ローテーションを組み入れた立枯れ性病害マニュアルを作成し県内産地への普及・定着を図る。また、開発された出荷予測技術を導入・検証して圃場調査・栽培管理指導を行い、厳寒期におけるイチゴ果実の成熟日数の適正化を図り、県内産地に普及・定着を促進する。

【成果目標及び達成状況】 (H25.3月末)

立ち枯れ性病害技術の導入農家
出荷予測技術を導入した農家数

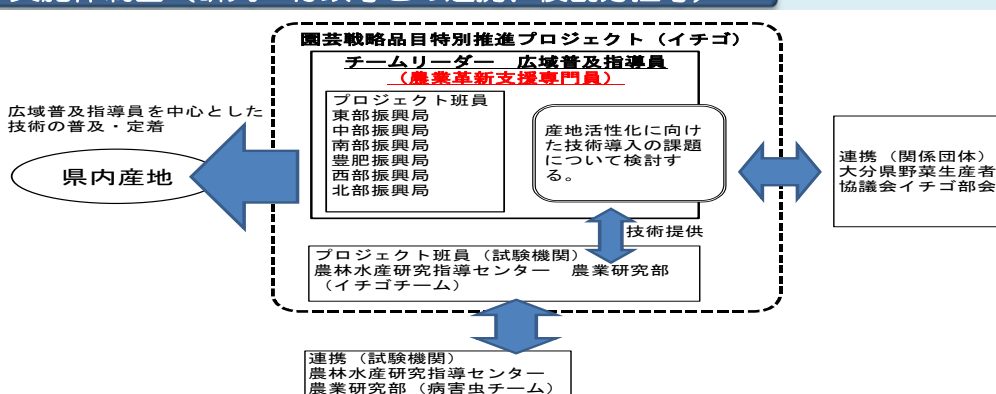
| 基準年 (H23) | 実績 (H24) | 目標 (H28) |
|--------------|-------------|-------------|
| 60戸 | 60戸 | 280戸 |
| 10戸 | 6戸 | 70戸 |

新技術の内容

炭そ病に効果のある薬剤ローテーションの導入により健苗の確保を図る。(2010年に大分県農林水産研究指導センターで開発)

さがほのかの開花時期から成熟日数を予測し、厳寒期の成熟日数を適正化する技術である。(2009年に大分県農林水産研究指導センターで開発)

実施体制図(研究・行政等との連携、役割分担等)



技術実証の成績等 (H24)

・雨よけベンチ育苗は立ち枯れ性病害対策に有効であることが認められた。また、炭そ病に効果のある薬剤ローテーションを組み入れた栽培マニュアルを作成し立ち枯れ性病害対策を徹底した。

・出荷予測技術の検証を兼ねて成熟日数調査を行った。技術は概ね妥当性があった。しかし、地域の差による日照時間の相違などによって、地域差が見られた。

| | 開花日 | 12月21日 | 12月28日 | 1月5日 | 1月18日 | 1月24日 | 2月2日 | 2月10日 |
|-----|-----------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 杵築市 | 収穫日(平均) | 1月30日 | 2月6日 | 2月15日 | 2月28日 | 3月5日 | 3月13日 | 3月20日 |
| | 収穫までの日数 | 40.6 | 40.7 | 41.3 | 41.4 | 41.1 | 40 | 39.2 |
| | 収穫までの積算温度 | 521.9 | 531.5 | 556.2 | 574.1 | 570.3 | 571 | 568.5 |
| 大分市 | 開花日 | — | 12月26日 | 1月4日 | 1月18日 | 1月24日 | 2月2日 | 2月8日 |
| | 収穫日(平均) | — | 2月4日 | 2月14日 | 3月2日 | 3月10日 | 3月19日 | 3月24日 |
| | 収穫までの日数 | — | 40.3 | 41.8 | 44.3 | 46.9 | 46.2 | 45.2 |
| | 収穫までの積算温度 | — | 527.9 | 532.3 | 562.6 | 591.6 | 595.8 | 587.6 |
| 宇佐市 | 開花日 | 12月22日 | 12月28日 | 1月12日 | 1月18日 | 1月24日 | 2月2日 | 2月10日 |
| | 収穫日(平均) | 2月9日 | 2月11日 | 2月24日 | 3月1日 | 3月7日 | 3月11日 | 3月19日 |
| | 収穫までの日数 | 49.1 | 45.3 | 43 | 43.1 | 43 | 38.8 | 38.7 |
| | 収穫までの積算温度 | 657.2 | 604.3 | 587.6 | 597.5 | 583.8 | 534.6 | 550.1 |
| 佐伯市 | 開花日 | 12月22日 | — | 1月13日 | — | 1月27日 | — | 2月9日 |
| | 収穫日(平均) | 2月19日 | — | 2月21日 | — | 3月7日 | — | 3月18日 |
| | 収穫までの日数 | 59.8 | — | 39.8 | — | 40.2 | — | 38 |
| | 収穫までの積算温度 | 690.5 | — | 470.1 | — | 511.9 | — | 499.1 |

技術実証及び技術普及における課題 (H24)

・立ち枯れ性病害対策にはベンチ育苗は必須であると思われるが、雨よけについては無被覆でも立ち枯れ性病害が蔓延していない事例や雨よけによって苗が徒長する事例も見受けられるため、雨よけ期間や資材の検討が必要である。

・出荷予測技術は大方の出荷動向をつかむのには有効と思われるが、流通面で必要とされる情報を提供するような精度ではないので、農林水産研究指導センターのイチゴチームと連携して精度を高めていく必要がある。

次年度に向けた課題への対応方策

・雨よけベンチ育苗は、立ち枯れ性病害対策の基本であるので引き続き展示園を設けて現地への普及を図るとともに、マニュアル(県独自)に基づいた防除対策を徹底する。

一方で、立ち枯れ性病害をあまり発生させない事例調査を行い、雨よけ期間や資材の検討を行う。

・年次間差を見るため引き続き成熟日数調査を行う。また、農林水産研究指導センターイチゴチームが新規課題で出荷予測技術の向上に取り組むので、連携してよりよい技術普及を図る。

24年度事業の取組内容

【イチゴプロジェクト班会議】(6回)】

農業革新支援専門員がチームリーダーとなり、プロジェクト活動内容の検討、マニュアルの改訂等を行った。

【雨よけベンチ育苗展示園設置(6振興局 11ヶ所)(7月)】

主な生産部会を対象に雨よけベンチ育苗展示園を設置した。

【育苗時栽培管理指導巡回(7~9月)】

主に立ち枯れ性病害対策のため巡回指導を行った。

【成熟日数調査圃設置(5振興局 6ヶ所)(10月)】

出荷予測技術の検証を兼ねて開花から収穫までの日数調査を行った。

【本圃栽培管理巡回指導(9~3月)】

主に厳寒期の展葉速度が落ちないように巡回指導を行った。

